



[ハレとケのまち京都]

景 069 (H26) 歴 058 (H26)

京都御苑の南、高倉通の西に面して建つ藤野家は、京都の白生地間屋の番頭であった先々代によって建築されました。先々代は茶の湯をよく嗜んだといわれ、表門を入れて主屋に至るまで随所にその趣向が取り入れられています。数寄屋風意匠が取り入れられた瀟洒な佇まいで、門の脇には雪隠や供待（待合）を備え、前庭を茶室の露地として使えるように演出されています。

大正15年に建てられた主屋は、典型的な大塀造で、平屋建の表側棟と二階建の居住棟を玄関棟でつないでいます。玄関を兼ねた茶室は、畳敷の四畳半に床の間と床脇を備え、西に下地窓、北に書院、東には3枚建障子と変化を持たせ、四方から光が取れるよう工夫されています。階段が2箇所あることによって、客人が1階の御座敷や居間を通らず玄関や水回りに行くことが出来るよう、当時としては非常に機能的で来客を重要視した作りです。

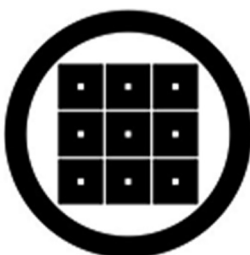
土蔵の棟札には「昭和拾三年式月参日建之」とあり、先々代が還暦記念に建築したことが記されています。二階建て本瓦葺きで、柱は桧、梁は松材とし、いずれも赤身材が使われています。主屋から水回りの廊下を通り、上履きのまま入れるよう工夫されているなど、主屋とは棟梁が異なるものの、入念な施工がなされていることがうかがえます。



表座敷



奥庭



〒604-0881 京都市中京区高倉通竹屋町上る坂本町707  
アクセス 地下鉄烏丸線「丸太町駅」徒歩5分  
ホームページ <https://fujinoke.kyoto/>